

令和6年度

佐々町教育委員会自己点検・評価報告書

佐々町教育委員会
令和8年2月25日

〈参考〉 地方教育行政の組織及び運営に関する法律

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

目 次

はじめに	1
1 趣旨	2
2 点検・評価の対象	2
3 点検・評価の方法	2
4 外部評価委員の意見	3～10
5 自己点検・評価総括表	11～13
6 令和6年度佐々町教育委員会自己点検・評価シート(A3資料)	1～8

はじめに

本町では、平成29年に第二期の教育振興基本計画を策定し、本町教育の充実に努めてきました。

第二期の期間中において、本町では、町内全小中学校のコミュニティ・スクール化、長期休業日の弾力的な設定、土曜授業の実施、小学校英語専科の配置、各校に通級指導教室の開設、小中学校の全教室にエアコンの設置、トイレの洋式化、全児童生徒へのタブレットの貸与、サン・ビレッジさざ屋内外テニスコートの人工芝の張り替え、町民体育館の改修等を行ってきました。

また、教育振興基本計画の達成度を数値的に検証する「佐々町教育員会自己点検・評価」においても、ほぼ満足できる成果をあげることができました。

本町の教育振興基本計画は、その達成状況を「活動指標」と「成果指標」によって年度ごとにチェックし、佐々町の教育の全体の評価を行い、PDCAのサイクルにより改善することに特徴があります。各学校においても、この評価を自己評価として、学校関係者評価委員会を兼ねる学校運営協議会によって学校の自己評価を評価し、学校のPDCAのサイクルにより改善を行うことにも特徴があります。

本計画においては、これらの、第二期佐々町教育振興基本計画の特徴を継承しながら、令和3年3月に策定された、第7次佐々町総合計画（令和3年度～令和12年度）における教育分野の個別計画として、その関連性を明確にすることにしました。

さらに、今後の「Society5.0社会」の実現に向けた変化が加速することも予想される中で、国においては、予測困難で変化の激しい社会の中を生き抜いていく人材を育成するために、小中学校の新学習指導要領が平成29年3月31日に公示され、「育成を目指す資質・能力の明確化」や「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進等の、抜本的な改善が行われました。

加えて、国連では、平成27年9月に、令和12年を期限とする、17の貧困や飢餓の根絶・福祉の推進などの開発目標「SDGs」を掲げ、国際社会全体の課題として取組を進めています。SDGsの理念（「誰一人取り残さない」社会の実現）の達成のためには、「教育」によるところが大きく、本町教育においてもSDGsの原動力となる質の高い「教育」提供を推進していかなければなりません。

新型コロナウイルス感染症予防のための、学校の全国一斉休業や感染症予防のための新たな対応等の、今までにない「健康（感染症）と教育」という課題も生じました。

これらの、多くの課題を克服しながら、一人一人がその生涯を通じて活躍することができる社会の実現に向けて教育の担う役割は大きくなっています。

令和3年度に策定した第三期佐々町教育振興基本計画は、現行計画の成果と課題の検証のうえに、教育を取り巻く趨勢や国の教育改革の動向等を踏まえ、取り組むべき施策を明らかにすることにより、本町教育の一層の充実に図るために策定したものです。こうした計画の実現に向けた取組については、教育委員会が高い使命感をもって責任を果たすとともに、教育行政の体制の整備及び充実に努め、効果的な教育行政を推進するため、令和6年度の教育委員会活動の点検及び評価を実施し、報告書として取りまとめました。

令和8年2月

佐々町教育委員会

教育長 富野 毅

1 趣旨

佐々町教育委員会は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定に基づき、毎年、その権限に属する主要な施策や事務事業の取組状況について、政策効果を把握し、その必要性・効率性等の観点から、自ら点検及び評価を行い、課題や取組の方向性を明らかにすることにしていきます。

佐々町教育委員会では、このことを踏まえて効果的な教育行政の一層の推進を図るとともに、この点検及び評価の結果に関する報告書を作成し、議会に提出し、また一般に公表することにより、町民に対する説明責任を果たし、信頼される教育行政を推進しようとするものです。

2 点検・評価の対象

点検及び評価は、前年度における教育委員会の主要な施策・事業を対象として実施するものとし、本年度は令和6年度に実施いたしました事業について点検及び評価を実施いたしました。

3 点検・評価の方法

点検・評価にあたって、本計画の策定にあたっては、第7次佐々町総合計画（令和3年度～令和12年度）における教育分野の個別計画として、その関連性を明確しつつ

- ①文章表現は要点を記載する。
- ②「活動指標」に具体的な取り組みを記載して、取り組みを明確にするとともに、評価を行う。
- ③「成果指標」を明確にすることで進捗状況や、その成果を明らかにする。

ことにしました。

なお、「成果指標」は、新型コロナウイルス感染症の影響がなかった令和元年度の数値によることといたしました。

本計画は、5年間の計画ではあるものの、今後の急速な教育改革が予想されることから、「活動指標」と「成果指標」については毎年度見直しを行うとともに、内容についても必要に応じて見直しを行い、現状と計画の乖離をなくすようにします。

なお、評価については、下記のように行います。

【活動指標】

- ・4段階評価とする。
- ・教育委員会の自己評価に加えて学校等による自己評価を行う。
- ・評価3.20以上を「A」、3.19～2.80を「B」、2.79～2.40を「C」、2.39以下を「D」とする。なお、複数の機関等による評価の場合はその平均値とする。

【成果指標】

- ・目標値に対する達成度が80%以上を「A」、79～70%を「B」、69～60%を「C」、59%以下を「D」とする。

また、客観性を確保するための外部評価については、次のとおり外部評価委員会を設け評価を受け、その委員の意見をまとめました。

○佐々町教育委員会外部評価委員名簿

(敬称略)

氏名	所属等	任期
十時 啓介	元小学校 校長	令和7年4月1日～令和9年3月31日
橋本 優花里	長崎県立大学 副学長	令和7年4月1日～令和9年3月31日

4 外部評価委員の意見

教育委員会の活動指標及び成果指標に基づき、それぞれの委員の意見を記述しています。

【十時 啓介委員】

佐々町では令和4年度から教育振興基本計画の第3期分が策定され、令和8年度までの5年間で取り組む努力目標及び主要施策が示された。今回評価するのはその3年目の取り組みである。開始年度の令和4年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、教育委員会だけでなく各学校や町施設での取組もその多くが計画変更や縮小・中止となってしまった。令和5年度は5月8日に新型コロナウイルス感染症が2類相当からインフルエンザと同じ5類相当になったことから、感染状況に配慮しながらも徐々に本来の取組が行われるようになってきた。そして令和6年度であるが、これまで制約を受けたことを払しょくするような取組がなされたものとする。しかし、それは感染症が広がる前の状態にもどるというものではない。この数年間、計画が進められなかった期間にGIGAスクール構想（文部科学省）による取組が一気に進み、児童・生徒の手元に一人一台のタブレットが届いたことからこれまでの学習スタイルが大きく変化することになった。佐々町でこれを主導したのはもちろん町教育委員会であり、それが各学校の教職員の指導方法、そして児童・生徒の学び方の変化へとつながっている。ただ、周知のことであるが、人の考え方や見方を変えるのは簡単ではない。しかし、今後ますます社会の変化が激しく、流動性の高い社会となっていくことが予想されている中で、旧態依然とした指導方法が通用するとは考えられない。令和6年8月に中央教育審議会で答申された「「令和の日本型教育」を担う質の高い教師の確保のための環境整備に関する総合的な方策について」は正に教職員の指導方法をより高める機会になるものとする。児童・生徒は一人一台のタブレットを手にし、新しい学習スタイルに敏感に反応している。その反応が満足いく学習につながるために、町教育委員会と各学校は連携して施策を進めてほしい。

これまで学校教育を述べたが、町教育委員会の業務は社会教育も含め多岐にわたる。ここではその領域の取組も含め、令和6年度の町教育委員会の取組について「佐々町教育委員会自己点検・評価報告書」をとおして評価させていただく。

1 佐々町教育委員会自己点検・評価シートについて

令和6年度は前年度に評価項目となっていた「教育行政の運営に関する一般方針を決定すること」が該当事案なしとなったため、1項目少ない8項目となった。そのすべてがA評価であった。

- (5) 「教育予算、その他議会の議決を経るべき事件の議案の作成について、意見を申し出ること」については令和7年度当初予算に係る主要事業が挙げられた。国民文化祭は本町で3事業が開催される計画であるから、準備は入念に行わなければならない。
- (6) 「教育委員会の規則の制定又は改廃を行うこと」については、14の規則・要綱等について議案及び専決が行われている。目を引いたのは給食費関係であるが物価高が進んでいる中で対策が遅れないようにしていかなければならないため、情報収集もまめに行わなければならない改定の検討は大変だったであろう。
- (7) 「教科用図書の採択に関する基本方針を定めること」については、令和6年度は中学校教科用図書の採択が行われている。QRコードが随所についているということだが、活用することで深い学びに結びつくことを期待している。

- (12) 「法令及び条例に基づく委員の委嘱及び解嘱を行うこと」については、学校運営協

議会委員や図書館協議会委員など多くの委員を委嘱しなければならないので大変だったであろう。

(13) 「校長、教員その他の教育関係職員の研修計画の大綱を定めること」については、昨年度同様、管理職から町雇用の支援員に至るまで、それぞれにきめ細かく計画され着実に実行されている。

(15) 「学校給食の企画及び指導方針を定めること」については、学校給食の公会計化について検討がなされている。令和6年1月に産業建設文教委員会において進捗状況の報告がなされた後、令和7年度に細かい準備がなされ、令和8年度から実施との見通しが立てられているので、スムーズに流れることを願っている。

2 佐々町教育委員会 自己点検・評価報告書について

令和5年5月以降に佐々町教育振興基本計画に沿った取組が本格的に動き出し、令和6年度ではそれがフル活動となった。しかし、本庁舎の新築移転に伴う準備や図書館工事の件などもあり、学校教育に向けられるべき時間も制約を受けた1年ではなかったろうか。

大項目1 「ふるさと教育の充実」

中項目が7つ設定され、活動指標として教育委員会から11点、学校等から15点が示されているが、いずれもA評価であった。

成果指標については「(No.7) 外国の人と友人になったり、外国のことについてもっと知ってみたいと思っている小学生の割合」と「(No.8) 英語の勉強は大切だと思っている中学生の割合」が評価なしとなっている。これについては文部科学省が令和8年度からの全国学力調査「英語」の中に新しく調査項目として設けるため省かれたということだった。(CBT方式と聞いている)

「(No.9) 県学力調査(英語)で6割以上理解している中学生の割合」が目標値に遠く及ばない状況になっている。苦手意識がどこにあるのか、関心の高いところがどこにあるのか少し細かい分析をして対策を講じていかなければならないだろう。「(No.6) 夢の実現に向けて行動している生徒の割合」の達成度が高いので、生徒の関心が高まれば改善できると思う。両小学校では地域人材を学校に招いての学習活動がよく行われている。児童は地域のGTへの関心が高く学習意欲も高まるので、教育委員会は学校のニーズに応えられる新しい人材探しにも積極的に取り組んでいただきたい。

中学校の職場体験学習は第3学年で実施されることになった。社会に対する意識が2学年の頃より高まっていると思うので、将来の生き方を考える機会になることを期待している。

大項目2 「一人一人の可能性を伸ばす教育の推進」

中項目が5つ設定され、活動指標として教育委員会から31点、学校等から41点が示されているが、いずれもA評価であった。昨年度課題となっていた「授業規律の徹底」が改善されたのがよかった。教育委員会と各学校が連携して取り組んだ成果と考える。

成果指標はすべてA評価であるが、昨年度に引き続き「(No.17) 全国学力テスト全国平均比較(到達度)」の達成度が気になる。評価区分としてはA評価であるが、89.7%の達成度は得点に直せば全国平均よりも10%以上低いということになるので、これでA評価になるのか非常に疑問である。このことに関して教育委員会は各学校の実態を調査の上、対策を検討していただきたい。

中項目「GIGAスクール構想の実現」では、タブレットを用いた学習やICT支援員の活用がスムーズに行えるようになってきたようである。しかし、まだ目標値には届いていない

状況なので、引き続き教育委員会からの支援・助言をお願いしたい。また、長期休業中はタブレットの自宅持ち帰りもできるようなので、家庭でも使える環境になっているか、見逃しはないのかといった確認もお願いしたい。

各学校の所見を読むと、児童・生徒の可能性を高めるための取組に工夫を凝らしているのがよくわかる。この取組が明らかに成果として確認できるよう教育委員会には支援していただきたい。

大項目3 「豊かな心と健やかな身体を育む教育の推進」

中項目が7つ設定され、活動指標として教育委員会から12点、学校等から23点が示されているが、いずれもA評価であった。

成果指標では、「(No. 29) いじめの解消率」が昨年度に引き続き100%となっている。児童・生徒の日常の言動の中に見える「おかしさ」に気づき、指摘できる姿勢が育っているのだろう。教育委員会の助言と各学校の努力に敬意を表したい。また「(No. 28) 周囲や相手に思いやりを持って生活できている児童生徒の割合」の達成度が今後も100%超となることを期待している。

「(No. 30) 学校図書館の児童生徒一人当たりの貸出冊数」で、中学校は目標値には届いていないがよく取り組んでいると思う。電子図書が普及してきた現状ではあるが、図書館の書架にはずらりと本の表題が並んでいる。ここで目にする情報量は電子図書にはできないことで、ふと目に留まった本を手にとることから初めて見る表現に出会える機会が生まれる。これは自分好みの表現以外にもいろいろな表現や考え方があることを知ることになるのではないか。図書指導に努力する中学校が目標値をクリアできるよう、ぜひ教育委員会からも支援していただきたい。

気になるのが生活習慣に関する内容(No. 36、No. 37、No. 39)である。教育委員会主導で作成した「佐々子ゆめプラン」は中学3年生で終わりではなく、その後の人生において自ら考え行動できる力の基礎を身につけてほしいという願いで作成されたものである。達成度が下がっている要因を家庭とも共有して改善に努めていただきたい。

大項目4 「信頼される学校づくりの推進」

中項目が5つ設定され、活動指標として教育委員会から15点、学校等から18点が示されているが、いずれもA評価であった。

成果指標では「(No. 41) 不登校児童生徒の割合」の該当年度値が下がっているのがよい。教育委員会は、登校できるようになった児童生徒の要因(意識の変化)を各学校とともに検証し、さらに不登校数が減るよう支援していただきたい。特に中学校はまだ不登校の生徒が少なくとは言えない状況なので「ステップルーム」「サテライトあすなろ佐々教室」「なずな」といった場所や施設とも連携して不登校解消を目指していただきたい。

ここで気になったのは「(No. 43) 自分には良いところがあると思う児童生徒の割合」の該当年度値が下がっていることである。自己肯定感の減少ともとらえられるので、友人からの声かけ、教師や保護者、地域の人達からの声かけなどを大事にして「自分は必要な存在」という意識が高まるよう支援していただきたい。

「(No. 53) 学校支援ボランティアの実人数」が現状地からほぼ倍増となっている。「佐々子応援団」以外にも多くの方々が教育委員会と各学校の取組に協力していることがとてもうれしい。

大項目5 「学校・家庭・地域の連携の推進」

中項目が4つ設定され、活動指標として教育委員会から10点、学校等から8点が示されているが、いずれもA評価であった。

教育委員会の活動指標に「(No. 100) 大学生活用への支援」がある。夏休みの各学校への教育支援など、教育委員会が積極的に関わってこそ実現する取組なので今後も継続していただきたい。

対して「(No. 105) 土曜学習の開催」や「(No. 108) 地域子ども教室の開催」は参加人数が減少している。野外活動は天候に左右されるため変動はあり得るが、委員会所見にあることを考慮しながら取組を進めていただきたい。

大項目6 「生涯学習機会の内容の充実と支援」

中項目が4つ設定され、活動指標として教育委員会から6点、学校等から6点が示されているが、5点がA評価で「(No. 110) 公民館学習グループ等の自主活動グループの育成」がB評価であった。

B評価となった要因は自主活動グループの数が増えないことと、公民館活動の登録者数が90名近く減ったことにある。成果指標の「(No. 64) 講座活動参加者の満足度」は目標値を上回っているため、参加者が限定される傾向にあることや高齢化などが根本にあるのだろう。成果指標の「(No. 67) 読み聞かせへの参加者数」が現状値からほぼ半減している。図書館のLED工事に伴う休館が原因として挙げられているが、それだけではないと考える。参加者は保護者引率で来館する子どもたちが主と思うので、保護者の意識も変わってきているのではないだろうか。図書館に足を向けやすいイベント的な読み聞かせを教育委員会と図書館で考えたり、保護者の意見を聞いたりして対策を考えていただきたい。

大項目7 「生涯スポーツの推進」

中項目が5つ設定され、活動指標として教育委員会から7点、学校等から7点が示されているが、6点がA評価、B評価は「(No. 121) スポーツ指導者の育成」であった。こちらも指導者の高齢化、後継者不在などの要因があるのだろう。スポーツボランティアの減少も加わったら、スポーツイベントそのものの開催・運営もできなくなるかもしれない。

成果指標の「(No. 71) ジョギングフェスティバルの参加者数」が現状値から700名近く減っている。当日フェスティバルに参加した人はもっと少ないと思われるので、これは深刻な状況だろう。「(No. 74) 総合型地域スポーツクラブ会員数」も現状値からほぼ半減している。しかし、「(No. 70) スポーツイベントの参加者数」はかなり増加しているので、関心がないということではないのだろう。成果指標 No. 34 と No. 35 にあるとおり学校体育は好きだという児童生徒は増えているので、町外のスポーツクラブ参加などでの活動が増えていると考えられる。

大項目8 「芸術・文化を守り、育てる活動の推進」

中項目が3つ設定され、活動指標として教育委員会と学校等で合わせて3点が示されているが、いずれもA評価であった。

成果指標では冊子「(No. 77) 佐々町博士」の活用度が100%を維持している。両小学校とも3・4年生を中心に本冊子の活用が十分なされているようだが、町内の施設等の移り変わりも著しいので、予算が絡む話ではあるが更新が滞らないように努めていただきたい。

「(No. 76) 社会教育講座における郷土史学習の受講者数」が減少している。公民館での活動ではあるが、小中学校への出前講座など考えられないだろうか。(炭鉱隆盛の頃の話や平戸

街道の話など)

大項目9 「地域文化の振興と創造」

中項目が昨年度より1項目減の3項目が設定され、活動指標として教育委員会と学校等で合わせて4点が示されているが、いずれもA評価であった。

成果指標では「(No.78) 町民文化祭の参加者数」が激減している。作品展示の見学者数をカウントしてあるが、とても少ないと感じた。教育委員会・公民館の所見にあるとおり、魅力ある町民文化祭を目指して検討していただきたい。

小中学校の取組は十分できている。洗練された音楽演奏を聴くことは感性を豊かにし将来の人生に豊かさを待たせるものになってくれると思う。今後もぜひ継続していただきたい。

おわりに

令和4年度から教育振興基本計画の第3期分が策定されて3年目の取組であったが、2年目の5月以降に活動が本格的に動き出したため、令和6年度は年間をとおして基本計画が軌道に乗ったかを検証する年になったと考える。小学校の不登校数減少に成果が現れてきているが、学力向上や生活習慣の改善など家庭への支援も含めて改善していかなければならないことは多い。また、地域活動の勢いが弱くなってきている印象があるので、教育委員会からの積極的な働きかけが求められる。

コロナ禍を境に教育の状況（生涯教育を含む）が大きく変化しているので、課題を明確にしながら対策を講じ、成果を上げられることを願っている。

【橋本 優花里委員】

1 はじめに

佐々町教育委員会の自己点検・評価においては、第3期佐々町教育振興基本計画に基づき、各項目の具体的な取り組みを記載した「活動指標」と進捗状況や成果を記載した「成果指標」が設定されており、それぞれにおいて評価が行われています。活動指標および成果指標共に、評価の基準が数値で示されていることから、評価基準の明確化が図られており、適切に運用されていると認められます。

大項目1～9においては、活動指標の総合評価はすべてA評価、成果指標の総合評価は1つの大項目を除いてすべてA評価となっています。成果指標の総合評価で唯一A評価とならなかったのが大項目9「地域文化の振興と創造」であり、D評価となっています。以上を踏まえ、各項目別の特記すべき評価をお伝えします。

2 項目別評価

(1) ふるさと教育の充実

各小学校では、地域団体と協力した活動が行われているほか、「佐々町博士」という佐々町独自の地域学習用教材が継続的に使用されており、地域の特色を生かしたふるさと教育が継続的に実施されていることが確認できます。今後も教材の伸展や充実が図られることで、より充実したふるさと教育が展開されると期待できます。また、中学校では今年度から新たに職場体験を実施されており、このことは子どもたちが地域の仕事を知り、地域に愛着を持つ機会になっていると考えられます。

(2) 一人一人の可能性を伸ばす教育の推進

一人一人の可能性を伸ばす教育を推進するためには、児童生徒一人一人の特性、学習進度、興味・関心に合わせて学習内容や方法を最適化する「個別最適な学び」の充実が欠かせません。そして、個別最適な学びを充実させるためには、ICTを最大限に活用することが求められます。本大項目内の中項目③「GIGAスクール構想の実現」の活動指標では、ICT支援員の配置や活用、ICT教育推進のための環境整備、タブレットの配置や活用、プログラミング教育の実施のための支援やプログラミング教育の効果的な実施の全てにおいてA評価であり、ICT教育の充実が図られていることが伺えます。また、同中項目の成果指標においてもパソコン等を使って、資料を探したり、自分の考えをまとめたり、発表したりできる5年生以上の児童生徒の割合やパソコンを活用した学習に意欲的に取り組んでいる5年生以上の児童生徒の割合が7割を超え、ICT環境の整備やICT支援が子どもたちの学びを後押ししていると感じます。

一部の児童生徒において活用度に差がみられることから、個に寄り添った支援がさらに図られるとともに、ICT以外のツールによる学習支援についても検討する必要があるのではないかと考えます。

(3) 豊かな心とすこやかな身体を育む教育の推進

2025年10月29日に公表された文部科学省による「令和6年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果の概要」では、2024年度の小・中・高等学校及び特別支援学校におけるいじめの認知件数は769,022件であり、前年度から5.0%増加し、4年連続で過去最多を記録しています。いじめがない土壌を作るためには、周囲や相手に対する思いやりの心の育成が欠かせません。中項目①「道徳教育の推進」や

中項目②「人権教育の推進」では、成果指標としての「周囲や相手に思いやりを持って生活できている児童生徒の割合（小学校5学年以上）」が9割弱となっており、児童生徒の豊かな心の育成は高い水準を維持しているといえます。一方で、残りの1割強の児童生徒については、周囲や相手に対する思いやりの心を育むための働きかけが必要であることがうかがえます。現場においてはすでに取り組みられていることと思いますが、それらの児童生徒がなぜそのような状況にあるのかについて丁寧にくみ取るとともに、それぞれの原因の解消に向けた個別の取り組みの充実が必要であると感じます。もちろん、豊かな心の育成は学校現場だけで達成されるものではありません。子どもとのかかわり方に関する研修会の機会の提供など、家庭へのはたらきかけも一策であると考えます。

また、中項目③「読書活動の推進」では、特に小学生の図書の貸し出し冊数が一人当たり1年間100冊を超え、目標値の80冊を大きく上回っていました。外部評価委員会では各校の図書室の工夫なども知ることができ、各校の努力が実を結ぶ結果となっていると感じました。読書離れが社会的に問題になる中、小学生のうちから多くの本を読むことはその後の読解力の向上・維持につながると考えます。所見内にて言及されていましたが、中学生においては目標値を下回る状況であることから、先進的な工夫を取り入れるなど、今後の改善に期待します。

(4) 信頼される学校づくりの推進

中項目①「生徒指導・相談体制の充実」において、「いじめの解消率」は100%、「不登校児童生徒の割合」は県の平均を下回っており、それぞれの取り組みの成果がうかがえます。同じ中項目の中の成果指標の一つである「自分には良い所があると思う生徒の割合」については、現時点で8割程度であり、目標値を上回りA評価となっているものの、2割の児童生徒においては自己肯定感を高めるための働きかけが必要であると感じます。すべての児童生徒が自らの良さに気づき、それを伸展できる教育の在り方が継続的に検討されることを望みます。

(5) 学校・家庭・地域の連携の推進

各校ともに家庭や地域と連携し、様々な活動が行われている様子がうかがえます。周辺に位置する高校や大学といった教育資源も活用されているとのことで、高校生や大学生との交流を通じて子どもたちがロールモデルを見いだす機会になっていると思われれます。またこのような機会は、高校生や大学生にとっても、自らの学びを生かす場として機能していると考えられることから、双方にとってWin-Winであるこのような活動を今後も継続・充実していただくことを願います。

(6) 生涯学習機会の内容の充実と支援

(5)において長崎県立大学と子どもたちの交流が充実したものになっていた一方で、長崎県立大学と連携した講座や活動については前年度と同様目標値を下回っており、所見においても課題として言及されています。具体的には、中項目②「各種講座を通じた指導者・ティーチャーの養成」内の成果指標である「県立大学と連携した講座や活動の実施回数（年間）」が目標値4回に対して実施回数は1回であり、D評価となっています。生涯学習の機会の提供については、大学の重要な地域貢献活動の一つであることから、より一層の連携を図っていく必要があると考えます。養成が求められている指導者やティーチャーの分野を選定し、テーマ設定に基づいた計画的実施体制の構築を望みます。また、上記(3)でも言及しましたが、家庭を含め、学校を取り巻く方々が子どもの指導者・ティーチ

ヤーとなるべく学ぶ機会を提供し、大人が学び続ける姿を子どもたちに示すことも大切であると考えます。

なお、長崎県立大学では「指導者・ティーチャーの養成」には特化していませんが、地域公開講座が定期的に行われています。地域に対して積極的にご周知いただくことで、生涯学習の機会の提供の充実につながることを期待します。

(7) 生涯スポーツの推進

ここでは特に、中項目③総合型地域スポーツクラブの育成の成果指標において、「総合型地域スポーツクラブの会員数」200名の目標値に対し現状が105名となっており、D評価となっています。昨年度の自己点検・評価においても同様の評価であり、コロナ禍の影響が緩やかに続いていること、住民の高齢化が進んでいること、そして指導者不足などの影響が考えられます。今一度、地域のスポーツに関するニーズを拾い上げるなど、地域と対話をしながらの推進が求められていると考えます。

(8) 芸術・文化を守り、育てる活動の推進

子どもたちの学習においては、前出の地域学習用教材である「佐々町博士」を活用した学習が定着していることがうかがえます。本所見では、地域住民の学習機会である社会教育講座の郷土史学習が継続的に開かれており、満足度の高い内容が展開されているとのことですが、受講者の固定化、減少が課題として指摘されています。成果指標である本講座の受講者数は目標値に30人に対して現状が20名となっており、C評価です。所見において提案されているように、子どもと地域住民が共に郷土史を学べる講座機会が提供されることを望みます。

(9) 地域文化の振興と創造

中項目②「子どもたちが芸術・文化にふれあう機会の提供」については、活動指標・成果指標共にA評価となっています。しかし、地域住民を含めた項目である中項目①「町民全体の文化芸術活動への支援」や③「文化会館の利用促進」については、成果指標において、町民文化祭の参加者数と文化会館使用者数がそれぞれ目標値を下回り、D評価となっています。町民文化祭の参加者数の低下については悪天候による1日目の中止も影響していると思われませんが、昨年度も参加者数の減少が指摘されていることから、事業内容および運営方法の再検討が課題と考えられます。文化会館については、ホームページで拝見するとかなり充実した施設であることがうかがえます。利用者低迷の原因についての分析が次の改善につながると考えます。

3 まとめ

総じて、掲げられた指標に対して充実した取り組みがなされており、成果が上がっている印象を受けました。佐々町では町外からの家族での流入も多いと聞いており、教育施策が地域の魅力形成に寄与していることがうかがえます。

報告書上では、例年同じ項目での課題があることも散見されることから、改善に向けて様々なアイデアをご検討いただき、より魅力的な教育・地域づくりを展開していただくことを期待します。

令和6年度 佐々町教育委員会自己点検・評価総括表

令和4年4月から第3期佐々町教育振興基本計画（Plan）により、本町の教育の基本的な方向性を示し、本町教育の振興に取り組むこととしました。

評価には、具体的な取り組みを記載した「活動指標」と進捗状況や成果を記載する「成果指標」を設定し、「何を行い（Do）」、「その結果がどうだったか（Check）」が明確になるようにしました。

なお、「成果指標」については、新型コロナウイルス感染症の影響がなかった令和元年度実績から行い、その改善に資することとしました。また、教育委員会や評価委員会において評価結果について検討することで改善（Action）につなげることとしました。

なお、「活動指標」及び「成果指標」は下記のように評価しました。

○活動指標

- ・4段階評価とする。
- ・評価3.20以上を「A」、3.19～2.80を「B」、2.79～2.40を「C」、2.39以下を「D」とする。

なお、複数の機関等による評価の場合はその平均値とする。

○成果指標

- ・目標値に対する達成度が80%以上を「A」、79～70%を「B」、69～60%を「C」、59%以下を「D」とする。

【総括表】

(活動指標)

	教育委員会	学校等	割合	A+Bの割合
A	94	118	98.1%	100.0%
B	2	2	1.9%	
C	0	0	0.0%	
D	0	0	0.0%	
—	0	0	0.0%	
計	96	120	100.0%	

(成果指標)

	数	割合	A+Bの割合
A	71	86.6%	90.2%
B	3	3.7%	
C	2	2.4%	
D	6	7.3%	
—	0	0.0%	
計	82	100.0%	

大項目	活動指標	成果指標
1 ふるさと教育の充実	A	A
2 一人一人の可能性を伸ばす教育の推進	A	A
3 豊かな心と健やかな身体を育む教育の推進	A	A
4 信頼される学校づくりの推進	A	A
5 学校・家庭・地域の連携の推進	A	A
6 生涯学習機会の内容の充実と支援	A	A
7 生涯スポーツの推進	A	A
8 芸術・文化を守り、育てる活動の推進	A	A
9 地域文化の振興と創造	A	D

令和6年度 佐々町教育委員会自己点検・評価シート

番号	項目	評価	所見
1	教育行政の運営に関する一般方針を決定すること。	/	該当事案なし
2	学校その他の教育機関の設置及び廃止を決定すること。	/	該当事案なし
3	法令に基づく認可に関すること。	/	該当事案なし
4	教育財産の取得及び処分について、町長へ申し出を行うこと。	/	該当事案なし
5	教育予算、その他議会の議決を経るべき事件の議案の作成について、意見を申し出ること。	A	【令和7年度当初予算に係る主要事業】 ・児童生徒用ノートパソコン購入事業 ・給食用備品（真空冷却機）購入事業 ・国民文化祭事業費
6	教育委員会の規則の制定又は改廃を行うこと。	A	別添「令和6年度 佐々町教育委員会規則・要綱等の承認状況一覧」のとおり規則・要綱等の制定、一部改正、廃止を行った。
7	教科用図書の採択に関する基本方針を定めること。	A	令和6年度は、中学校教科書の採択を県北地区採択協議会（平戸・松浦市、小値賀・佐々町で構成）で法令等に従い公正に行った。
8	学校その他の教育機関の施設及び整備計画の大綱を定めること。	/	該当事案なし
9	教育長、教育委員会の事務局職員及び教育委員会の所管に属する学校以外の教育機関の職員の人事に関すること。	A	教育委員会の所管に属する教育機関の人事について承認を行った。
10	校長、教員その他の教育関係職員の人事に関すること。	A	3月の定例教育委員会において、教職員の人事について承認を行った。
11	学校の通学区域の設定及び変更を行うこと。	/	該当事案なし
12	法令及び条例に基づく委員の委嘱及び解嘱を行うこと。	A	各種委員会等の委員委嘱について承認を行った。
13	校長、教員その他の教育関係職員の研修計画の大綱を定めること。	A	第3期佐々町教育振興基本計画に則り、校長・教員については、毎月1回の定例研修会を開催している。また、教務主任、研究主任、生活指導主任・生徒指導主事、養護教諭、特別支援教育担当者の研修会をそれぞれ3回実施した。また、町雇用の特別支援教育関係の支援員も含めた研修会を実施した。
14	校長、教員その他の教育関係職員、幼児、児童及び生徒の保健、安全、衛生、厚生、並びに福利に関する基本方針を定めること。	/	該当事案なし
15	学校給食の企画及び指導方針を定めること。	A	学校給食の公会計化について検討を行った。
16	文化財の指定に関すること。	/	該当事案なし

令和6年度 佐々町教育委員会規則・要綱等の承認状況一覧

承認年月日	規則／要綱	議案／専決	規則・要綱等の名称
R6.4.24	要綱	専決	佐々町小中学校給食費負担軽減事業補助金交付要綱の一部改正
R6.4.24	要綱	専決	佐々町中学校給食費無償化事業補助金交付要綱の制定
R6.4.24	要綱	専決	佐々町要保護及び準要保護児童生徒就学援助に関する要綱の一部改正
R6.9.5	要綱	議案	佐々町羽ばたけ若者人材育成奨学金支給要綱の廃止
R6.9.5	規則	議案	佐々町羽ばたけ若者人材育成奨学金基金条例施行規則の制定
R6.9.5	要綱	議案	佐々町羽ばたけ若者人材育成奨学金選考委員会設置要綱の制定
R6.9.25	要綱	議案	佐々町幼稚園型一時預かり事業補助金交付要綱の廃止
R6.9.25	要綱	議案	佐々町副食費の実費徴収に係る補足給付事業実施要綱の廃止
R6.10.29	規程	専決	佐々町教育委員会公印規程の制定
R6.11.25	規則	議案	佐々町立図書館管理運営規則の一部改正
R6.12.25	要綱	議案	佐々町教育委員会関係補助金等交付要綱の一部改正
R7.1.29	要綱	議案	佐々町小学校給食費負担軽減事業補助金交付要綱の一部改正
R7.3.26	規則	議案	佐々町教育委員会傍聴人規則の制定
R7.3.26	要綱	議案	佐々町小中学校給食物価高騰対策事業費補助金交付要綱の一部改正

令和6年度 佐々町教育委員会自己点検・評価報告書

大項目	中項目	活動指標							成果指標								
		NO	教育委員会指標の内容	達成度	評価	学校等指標の内容	対象	達成度	評価	NO	指標の内容	現状値	目標値	該当年度値	達成度	評価	調査方法
1 ふるさと教育の充実	① ふるさと教育の推進	1	「佐々町博士」の活用推進	4.0	A	「佐々町博士」の活用(小学校)	学校等	4.0	A	1	佐々町に愛着を持つ児童生徒の割合【総合戦略】	データなし	100%	92	91.7%	A	独自アンケート
		2	「ふるさと長崎県」の活用推進	4.0	A	「ふるさと長崎県」の活用(中学校)	学校等	4.0	A	2	「佐々町博士」の活用度(小学校)	100%	100%を維持	100	100.0%	A	実態調査
	② 体験活動の推進	3	体験活動推進のための支援・指導	4.0	A	体験活動の充実	学校等	4.0	A	3	佐々町の地域資源を活用した体験活動の実施率	100%	100%を維持	100	100.0%	A	実態調査
		4	町の地域資源を活用した体験活動の推進	4.0	A	町の地域資源を活用した体験活動の実施	学校等	4.0	A								
	③ 地域人材の活用	5	地域人材活用のための支援・指導	4.0	A	地域人材活用の推進	学校等	4.0	A	4	学校支援ボランティアの実人数(年間)(小中学校合計)	94人	100人	181	180.7%	A	実態調査
		④ キャリア教育の推進	6	キャリア教育推進のための支援	4.0	A	地域人材等を活用した「生き方」を学ぶ機会の設定	学校等	4.0	A	5	夢や憧れがある児童の割合(小学校)	92.0%	95%	89	93.7%	A
	7					職場見学を含む学習の実施(小学校)	学校等	4.0	A	6	夢の実現に向けて行動している生徒の割合(中学校)	74.0%	80%	91	113.8%	A	学校運営調査5-2(2)
	8					職場体験の実施(中学校)	学校等	4.0	A								
	⑤ グローバル化に対応した教育の推進	9	ALT配置への支援	4.0	A	ALTの効果的な活用	学校等	4.0	A	7	外国の人と友人になったり、外国のことについてもっと知ってみたいと思っている小学生の割合	68.6%	70%	#DIV/0!	評価なし	—	全国学力調査25
			10	英語活動・英語の適切な実施への支援(小学校)	4.0	A	英語活動・英語の適切な実施(小学校)	学校等	4.0	A	8	英語の勉強は大切だと思っている中学生の割合	82.4%	85%	#DIV/0!	評価なし	—
		11	英語力向上のための取組の支援(中学校)	4.0	A	英語力向上のための取組の推進(中学校)	学校等	4.0	A	9	県学力調査(英語)で6割以上理解している中学生の割合	18.0%	60%	20	33.3%	D	全国学力調査または県学力調査
	⑥ 環境教育の推進	12	環境教育推進のための支援・指導	4.0	A	環境学習の実施(教科の学習等を含む)	学校等	4.0	A	10	環境教育に関連する体験的な学習(活動)の実施率	100%	100%を維持	100	100.0%	A	実態調査
		13				自然とふれあう活動の実施	学校等	4.0	A								
	⑦ 平和教育の推進	14	平和教育推進のための支援・指導	4.0	A	平和学習の実施(教科等を含む)	学校等	4.0	A	11	戦争の悲惨さや平和の尊さについて理解を深めている児童生徒の割合	98.0%	100%	97.0	97.0%	A	学校運営調査5-4
		15				平和集会(8月9日)の実施	学校等	4.0	A								

所見	評価	教育委員会項総合評価(活動指標)		学校等項総合評価(活動指標)		項総合評価(成果指標)	
		達成度平均: 4.0	総合評価: A	達成度平均: 4.0	総合評価: A	評価平均: 101.1%	総合評価: A
所見(幼稚園)							
所見(佐々小)		ふるさと教育の充実に向け、地域人材をのべ531人活用することができた。また11月には、地域の団体やサークル活動の方々をお招きし、「わくわく佐々っ子フェスタ」を行った。地域の方が講師となって、ワークショップ形式で活動を行い、交流を深めるとともに地域への感謝や愛着の気持ちを高めることができた。					
所見(口石小)		地域婦人会の方々に、梅干しづくり、生ごみたい肥による野菜の栽培、家庭科の裁縫支援などお世話になり、充実した体験活動を行うことができた。また、地域の農家の方には、田植え・稲刈り、老人会の皆様には昔遊びの指導でお世話になった。ふるさとで活躍されている方々と交流することで、ふるさとを大切に、ふるさとに貢献しようという思いをもった児童が育ってきている。					
所見(佐々中)		主体的に学ぶ生徒の育成のために全職員が協働することができた。職場体験学習を令和6年度より3学年で実施した。総合的な学習の時間の見直しを行い、令和7年度からは、第1学年で実施していた宿泊学習を佐々町における地域探究学習に変更することとしている。					
所見(委員会)		佐々町博士は地域学習用教材として非常に使いやすいと好評であった。地域の方々のご指導の下、様々な体験活動を行い、その中で地域の魅力や伝統に触れ、ふるさとへの愛着を深めることができ、ふるさと教育の充実につながった。中学校での職場体験学習は、第3学年で実施し働くことの意義や社会の一員としての責任を学んだ。生徒一人一人が自分の将来や生き方を考える契機となりキャリア教育の推進が図られた。					

令和6年度 佐々町教育委員会自己点検・評価報告書

大項目	中項目	活動指標							成果指標									
		NO	教育委員会指標の内容	達成度	評価	学校等指標の内容	対象	達成度	評価	NO	指標の内容	現状値	目標値	該当年度値	達成度	評価	調査方法	
2 一人一人の可能性を伸ばす教育の推進	① 確かな学力の育成	16	学習指導要領の適切な実施への指導	4.0	A	学習指導要領の適切な実施	学校等	4.0	A	12	3校研における公開授業の開催数(年間)	3回	3回以上	2.67	88.9%	A	実態調査	
		17	教材・教具の充実のための支援	4.0	A	教材・教具の充実	学校等	4.0	A	13	タブレットを活用した授業の実施	データなし	100%	100.00	100.0%	A	実態調査	
		18	授業改善の指導・支援	4.0	A	授業改善の推進	学校等	4.0	A	14	横断的・総合的な学習の実施率	100%	100%を維持	100.00	100.0%	A	実態調査	
		19	ICT教育推進のための環境整備	4.0	A	ICT教育の推進	学校等	4.0	A	15	ボランティア活動など社会奉仕に関わる体験活動の実施率	100%	100%を維持	100.00	100.0%	A	実態調査	
		20	学校訪問による指導	4.0	A	学校訪問による指摘事項等の学校改善への反映	学校等	4.0	A	16	佐々町学力テスト全国平均比較(到達度)	0.96	1.00以上	1.02	101.7%	A	町学力調査	
		21	3校共同研究の支援・指導	4.0	A	3校共同研究の効果的な実施	学校等	4.0	A	17	全国学力テスト全国平均比較(到達度)【総合戦略】	0.97	1.00以上	0.90	89.7%	A	全国学力調査	
		22	校内研修の支援・指導	4.0	A	校内研修の効果的な実施	学校等	4.0	A									
		23	職員研修の推進・支援	4.0	A	職員研修の効果的な実施	学校等	4.0	A									
		24	加配教員の活用のための支援	4.0	A	加配教員の効果的な活用	学校等	4.0	A									
		25	学力向上支援員の配置	4.0	A	学力向上支援員の効果的な活用	学校等	4.0	A									
		26	サポート・ティチャー配置への支援	4.0	A	サポート・ティチャーの効果的な活用	学校等	4.0	A									
		27	ALT配置への支援	4.0	A	ALTの効果的な活用	学校等	4.0	A									
		28	学力向上のための指導・支援	4.0	A	学力向上のための取組の充実	学校等	4.0	A									
		29				家庭学習の習慣化の指導	学校等	4.0	A									
		30				授業規律の徹底	学校等	4.0	A									
	31				校内研究授業の効果的な実施	学校等	4.0	A										
	32				横断的・総合的な学習への支援	学校等	4.0	A										
	33				体験活動実施への支援	学校等	4.0	A										
	34				佐々町学力テスト実施・活用への支援	学校等	4.0	A										
	35				全国学力テスト実施・活用への支援	学校等	4.0	A										
		② 学校間の連携の推進	36	3校共同研究の支援・指導	4.0	A	3校共同研究の効果的な実施	学校等	4.0	A	18	3校共同研究による相互交流授業・研究の実施回数(年間)	3回	3回以上	3.3	111.1%	A	実態調査
	37		「佐々子ゆめプラン」啓発の支援	4.0	A	「佐々子ゆめプラン」の啓発	学校等	4.0	A	19	中学校体験入学の実施率	100%	100%を維持	100.0	100.0%	A	実態調査	
	38					中学校体験入学の効果的な実施	学校等	4.0	A	20	両小学校交流の実施率	100%	100%を維持	100.0	100.0%	A	実態調査	
	39					両小学校交流機会の設定	学校等	4.0	A									
		③ GIGAスクール構想の実現	40	ICT支援員の配置	4.0	A	ICT支援員の有効な活用	学校等	4.0	A	21	パソコン等を使って、資料を探したり、自分の考えまとめたり、発表したりすることができる児童生徒の割合(小学校第5年生以上)	データなし	80%	77.7	97.1%	A	学校運営調査5-5(1)
	41		ICT教育推進のための環境整備	4.0	A	電子黒板の効果的な活用	学校等	4.0	A	22	パソコンを活用した学習に意欲的に取り組んでいる児童生徒の割合(小学校第5学年以上)	データなし	90%	84.3	93.7%	A	学校運営調査5-5(2)	
	42		タブレットの配置	4.0	A	タブレットの効果的な活用	学校等	4.0	A									
	43		プログラミング教育実施のための支援	4.0	A	プログラミング教育の効果的な実施	学校等	4.0	A									
	44					情報教育の適切な実施(中学校)	学校等	4.0	A									
	45					情報モラル教育の適切な実施	学校等	4.0	A									
		④ 幼児教育の推進	46	幼児教育の適切な実施への支援・指導	4.0	A	幼児教育の適切な実施	幼保等	4.0	A	23	小学校体験入学の実施率	100%	100%を維持	100	100.0%	A	実態調査
	47		就学時健康診断の適切な実施	4.0	A	小学校への適切な引き継ぎの実施	幼保等	4.0	A									
	48					小学校体験入学の効果的な実施	幼保等	4.0	A									

令和6年度 佐々町教育委員会自己点検・評価報告書

大項目	中項目	活動指標							成果指標								
		NO	教育委員会指標の内容	達成度	評価	学校等指標の内容	対象	達成度	評価	NO	指標の内容	現状値	目標値	該当年度値	達成度	評価	調査方法
⑤ 特別支援教育の推進		49	「合理的配慮」の提供	4.0	A	「合理的配慮」の提供	学校等	4.0	A	24	個別の教育支援計画の作成率	100%	100%を維持	100	100.0%	A	実態調査
		50	特別支援教育支援員の配置	4.0	A	特別支援教育支援員の効果的な活用	学校等	4.0	A	25	特別支援教育を理解している教員の割合	100%	100%を維持	100	100.0%	A	実態調査
		51	教育支援委員会の適切な開催	4.0	A	校内の相談体制の確立	学校等	4.0	A								
		52	関係機関との連携	4.0	A	関係機関との連携	学校等	4.0	A								
		53	特別支援教育に関わる担当者研修会の開催	4.0	A	特別支援教育に関わる研修会の開催	学校等	4.0	A								
		54	就学時健康診断の適切な実施	4.0	A	小学校への適切な引き継ぎの実施	学校等	4.0	A								
		55				子どもの情報の共有	学校等	4.0	A								
		56				個別の教育支援計画の作成	学校等	4.0	A								

評価	教育委員会項総合評価(活動指標)		学校等項総合評価(活動指標)		項総合評価(成果指標)	
	達成度平均: 4.0	総合評価: A	達成度平均: 4.0	総合評価: A	評価平均: 98.7%	総合評価: A
所見						
所見(幼稚園)						
所見(佐々小)	教育支援員及びICT支援員を適切に活用し、校内研究による授業改善(子どもが進める授業)を軸に確実に成果があがっている。授業改善やICTの効果的な活用により県学力調査、全国学力・学習状況調査、町学力調査においても、ほとんどの学年で全国平均を上回っている。今後も、授業改善を柱にさらなる学力向上を目指し、児童の可能性を伸ばす教育の実現を目指していく。また、特別支援教育の指導体制を強化した結果、情緒的に不安定だった児童の多くが落ち着いた学校生活を送ることができた。6年生は、口石小との交流会を企画していたが、インフルエンザ流行のため実施できなかった。					
所見(口石小)	研究主題「自己肯定感を持ち、未来を拓く子どもの育成」の実現に向け、校内研修で共通理解を図りながら「進んで対話し学ぶ楽しさを味わう学習」を軸に授業改善を行い、児童の学力向上に努めた。また、サポートティーチャーや学力向上支援員などを効果的に活用することで、きめ細やかな指導を実施することができた。さらに、特別支援教育に力を入れ、町の学習・生活支援員、特別支援教育支援員、心の教育相談員、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの力を最大限活用し、一人一人の可能性を伸ばす教育を推進できた。					
所見(佐々中)	主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、生徒同士の「学び合い」を授業へ取り入れるために、福岡より講師を招聘したり、先進校視察を実施したりして研修会を実施している。3校研を活用し授業改善を図った。ICT支援員を効果的に活用し、授業における活用やオンライン集会等を実施した。					
所見(委員会)	全国学力調査では、小学校・中学校とも全国平均を下回った。県学力調査では、小学校の国語、算数、中学校の国語で県平均を上回った。町の学力調査では、小学校算数で全国平均を上回り、国語、社会、理科は全国平均レベルだった。中学校は、英語と中1理科が全国平均を下回ったが他は全国平均レベルであった。ICT機器を活用した授業支援や講師招聘研究授業等を実施することにより、児童生徒の「主体的・対話的で深い学び」につながる授業づくりの支援を行った。また、3校共同研究や各種研修会を通して各校が「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進し、子どもたち自ら課題を見出し他者と協働しながら思考を深める学習を展開していくことで学力の向上を図っている。					

2 一人一人の可能性を伸ばす教育の推進

令和6年度 佐々町教育委員会自己点検・評価報告書

大項目	中項目	活動指標							成果指標								
		NO	教育委員会指標の内容	達成度	評価	学校等指標の内容	対象	達成度	評価	NO	指標の内容	現状値	目標値	該当年度値	達成度	評価	調査方法
3 豊かな心と健やかな身体を育む教育の推進	① 道徳教育の推進	57	道徳に関する研修会への参加促進	4.0	A	道徳に関する研修会への参加	学校等	4.0	A	26	「長崎っ子の心を見つめる教育週間」における道徳授業の公開率	100%	100%を維持	100.0	100%	A	実態調査
		58	佐々っ子3ヶ条の啓発	4.0	A	佐々っ子3ヶ条の啓発	学校等	4.0	A	27	周囲や相手に思いやりを持って生活できている児童生徒の割合(小学校第5学年以上)	88.4%	90%	94.7	105%	A	学校運営調査5-1
		59				道徳の授業の効果的な実施	学校等	4.0	A								
		60				「長崎っ子の心を見つめる教育週間」における道徳授業の公開	学校等	4.0	A								
		61				豊かな情操、規範意識、道徳心を育むための日常的な取組	学校等	4.0	A								
	② 人権教育の推進	62	人権教育推進のための支援・指導	4.0	A	人権学習の実施(教科等を含む)	学校等	4.0	A	28	周囲や相手に思いやりを持って生活できている児童生徒の割合(小学校第5学年以上)	88.4%	90%	94.7	105.2%	A	学校運営調査5-1
		63	いじめ防止基本方針に従った指導・対応	4.0	A	いじめ防止基本方針に従った指導・対応	学校等	4.0	A	29	「いじめ」の解消率	100%	100%を維持	100.0	100.0%	A	実態調査
		64				人権集会の実施	学校等	4.0	A								
		65				いじめへの適切な対応と早期の解消	学校等	4.0	A								
	③ 読書活動の推進	66	読書活動推進のための支援・指導	4.0	A	読書活動推進のための取組	学校等	4.0	A	30	学校図書館の児童生徒一人当たりの貸出冊数(年間)	小学校 95冊	小学校 80冊	107.5	134.4%	A	実態調査
		67				「読み聞かせ」の実施(保育所等・小学校)	学校等	4.0	A			中学校 4冊	中学校 20冊				
	④ 子どもたちの芸術・文化活動の推進	68	青少年劇場の開催	4.0	A	青少年劇場への参加と成果の活用	学校等	4.0	A	31	舞台芸術を生で鑑賞したことがある生徒の割合	100%	100%を維持	100.0	100.0%	A	実態調査
		69	伝統文化にふれる機会の充実のための支援・指導	4.0	A	芸術・文化の鑑賞機会の充実(教科等を含む)	学校等	4.0	A	32	芸術や文化に関わる体験活動の実施率	100%	100%を維持	100.0	100.0%	A	実態調査
		70				芸術・文化に関わる体験活動の実施(教科等を含む)	学校等	4.0	A								
	⑤ 体力向上の取組の推進	71	体力向上に対する支援・指導	4.0	A	体育の授業の充実	学校等	4.0	A	33	体力テスト全国平均比較(到達度)	0.957	1.00以上	1.0	96.2%	A	実態調査
		72	運動に親しめる環境の整備	4.0	A	運動の機会の充実(部活動を含む)	学校等	4.0	A	34	体育の授業で運動ができるようになった児童生徒の割合	88.0%	90%	90.3	100.4%	A	体力運動能力調査
		73				体育的行事の充実	学校等	4.0	A	35	体育の授業が楽しいという児童生徒の割合	90.1%	90%	91.3	101.5%	A	体力運動能力調査
		74				体力テスト結果の有効活用	学校等	4.0	A								
	⑥ 健康教育の推進	75	「佐々っ子ゆめプラン」啓発の支援	4.0	A	「佐々っ子ゆめプラン」の啓発・検証	学校等	4.0	A	36	毎日同じくらいの時刻に寝ている児童生徒の割合	88.1%	90%	77.7	86.3%	A	全国学力調査2
		76				望ましい生活習慣を身につけさせるための日常的な取組	学校等	4.0	A	37	毎日同じくらいの時刻に起きている児童生徒の割合	95.5%	98%	91.0	92.9%	A	全国学力調査3
	⑦ 食育の推進	77	「佐々っ子ゆめプラン」啓発の支援	4.0	A	「佐々っ子ゆめプラン」の啓発・検証	学校等	4.0	A	38	「食」に関する栄養教諭による指導回数(年間)	104回	50回	72.7	145.3%	A	実態調査
		78	給食の充実に関する支援	4.0	A	給食指導の充実	学校等	4.0	A	39	朝食を毎日食べている児童生徒の割合	97.0%	100%	92.3	92.3%	A	全国学力調査1
		79				個別的な健康相談の実施	学校等	4.0	A								

所見	評価	教育委員会項総合評価(活動指標)		学校等項総合評価(活動指標)		項総合評価(成果指標)	
		達成度平均: 4.0	総合評価: A	達成度平均: 4.0	総合評価: A	評価平均: 102.7%	総合評価: A
所見(幼稚園)							
所見(佐々小)		人間関係の構築と活性化を図るために、Q-Uテストの結果を詳細に分析し、各担任の学級経営に生かしている。道徳教育については、教職員相互に日々の授業改善について研修や情報交換を行い、子どもの心に響く指導に努めている。また、人権教育・平和教育等、教室で学習した内容が日常生活の実践につながるよう、特別活動や総合的な学習の時間を中心とした体験活動の充実を図っている。図書館教育については、様々なイベントを行うことにより子どもの読書意欲が高まっている。					
所見(口石小)		「心を見がく一日一善(あいさつ、へんじ、くつならべ)」を学校経営に位置づけ、全校で実施した。具体的な取組の一つとして「あいさつ名人」や「スリッパ並べ名人」を全校で紹介することを継続し、意識の向上を図った。また、人権教育を重視し、トラブルに対して迅速で適切な対応を組織全体で取り組むことを年間通して実施した。さらに、年2回「生活習慣カレンダー」への記入を実施することで、よりよい生活習慣への改善を図るとともに、今年度は、メディア講演会を全校で実施した。子どもだけに指導するのではなく、保護者の意識も向上するよう親子での開催とし、メディアに対する意識を学校と家庭で共有し、生活習慣の見直しを図った。					
所見(佐々中)		豊かな人間性、社会性を育む教育の推進のために、「長崎っ子の心を見つめる教育週間」における道徳の公開授業の実施、及び平和集会や人権集会等を通して、規範意識や人権感覚を高める生徒主体の取組を行った。いじめ問題については、早期発見・早期対応を徹底し、いじめを許さない態度・雰囲気醸成に取り組んだ。R6末時点では、解消率は100パーセントとなっている(3ヶ月経過していないものを除く)が、今後も定期的なアンケートの実施等を行い、学校全体での状況把握を徹底する。また、読書活動の充実を通して、読解力の向上および学力向上へ取り組んできた。貸し出し冊数も徐々に向上していることから、今後も司書教諭と連携しながら対応していきたい。					
所見(委員会)		今年度も「周囲や相手に思いやりを持って生活できている児童生徒の割合」は高い水準を維持できており、児童生徒の心情的な成長は図られている。「学校図書館の児童生徒一人当たりの貸出冊数(年間)」については、小学校は目標値を達成したが、中学校は達成することができておらず改善が必要である。体力向上の取組については、各学校が個別的にできる体力向上に工夫しながら取り組み、全国体力・能力調査においては全国平均には若干及ばなかったもののおおむね達成できた。「食」に関する栄養教諭による指導回数については、目標値を上回り、指導の充実を図ることができた。					

令和6年度 佐々町教育委員会自己点検・評価報告書

大項目	中項目	活動指標						成果指標							
		NO	教育委員会指標の内容	達成度	評価	学校等指標の内容	対象	達成度	評価	NO	指標の内容	現状値	目標値	該当年度値	達成度

大項目	中項目	活動指標						成果指標									
		NO	教育委員会指標の内容	達成度	評価	学校等指標の内容	対象	達成度	評価	NO	指標の内容	現状値	目標値	該当年度値	達成度	評価	調査方法
4 信頼される学校づくりの推進	① 生徒指導・相談体制の充実	80	生徒指導主事・生活指導主任研修会の開催	4.0	A	生活規律の適切な指導	学校等	4.0	A	40	「いじめ」の解消率	100%	100%を維持	100	100%	A	実態調査
		81	関係機関との連携	4.0	A	関係機関との連携	学校等	4.0	A	41	不登校児童生徒の割合	1.20	県平均以下	1.06	163.7%	A	実態調査
		82	佐々子3ヶ条の啓発の支援	4.0	A	佐々子3ヶ条の繰り返しの指導	学校等	4.0	A	42	学校のきまりを守っている児童生徒の割合	93.6%	95%	95.00	100.0%	A	全国学力調査13
		83	問題行動対応についての指導	4.0	A	問題行動への適切な対応	学校等	4.0	A	43	自分にはよいところがあると思う児童生徒の割合	83.1%	85%	80	94.1%	A	全国学力調査5
		84	「いじめ防止基本方針」に従った指導・対応	4.0	A	「いじめ防止基本方針」に従った指導・対応	学校等	4.0	A	44	スクールカウンセラーの配置(県事業)	各校1人	現状維持	1	100.0%	A	実態調査
		85	不登校支援対策委員会の開催	4.0	A	不登校対策の充実	学校等	4.0	A	45	スクールソーシャルワーカーの配置(県事業)	町内1人	現状維持	1	100.0%	A	実態調査
		86	SC、SSW、心の教室相談員の配置	4.0	A	相談活動の充実	学校等	4.0	A	46	心の教室相談員の配置	各校に配置	現状維持	1.33333333	133.3%	A	実態調査
	② 子どもの安全確保対策の推進	87	危機管理マニュアルに従った指導・対応	4.0	A	危機管理マニュアルに従った指導・対応	学校等	4.0	A	47	通学路安全点検の実施率	100%	100%を維持	100	100.0%	A	実態調査
		88	防犯・防災・交通安全教育の支援・指導	4.0	A	防犯・防災・交通安全教育の実施	学校等	4.0	A	48	避難訓練の実施回数(年間)	小学校 3回	現状維持	3	100.0%	A	実態調査
		89	通学路安全推進会議の開催	4.0	A	通学路安全点検の実施	学校等	4.0	A			中学校 2回		2	100.0%	A	実態調査
		90				避難訓練の実施	学校等	4.0	A	49	佐々子応援団見守り活動参加者数【総合戦略】	70人程度	現状維持	70.0	100.0%	A	実態調査
	④ 学校・家庭・地域の連携を図る取組の推進	91	地域人材活用への支援	4.0	A	地域人材の活用	学校等	4.0	A	51	「危機管理マニュアル」の作成率	100%	100%を維持	100	100.0%	A	実態調査
		92	コミュニティ・スクール佐々モデルの充実	4.0	A	コミュニティ・スクール佐々モデルの充実	学校等	4.0	A	52	学校だより等による発信	100%	100%を維持	100	100.0%	A	実態調査
		93				学校評価結果の公表と適切な活用	学校等	4.0	A	53	学校支援ボランティアの実人数(年間)(小中学校合計)	94人	100人	181	180.7%	A	実態調査
		94				学校運営協議会の充実	学校等	4.0	A								
	⑤ 教職員の指導力の向上	95	研修会受講の支援・指導	4.0	A	研修会への積極的な参加	学校等	4.0	A	54	町教委主催の各主任研修会の開催数(年間)	12回	12回以上	11	91.7%	A	実態調査
		96	各主任研修会の開催	4.0	A	研修内容の適切な校内伝達や活用	学校等	4.0	A	55	3校共同研究による相互交流授業・研究の実施回数(年間)	3回	3回以上	2.67	88.9%	A	実態調査
		97	3校共同研究の支援・指導	4.0	A	3校共同研究の充実	学校等	4.0	A								

所見	評価	教育委員会項総合評価(活動指標)		学校等項総合評価(活動指標)		項総合評価(成果指標)	
		達成度平均: 4.0	総合評価: A	達成度平均: 4.0	総合評価: A	評価平均: 109.5%	総合評価: A
所見(幼稚園)							
所見(佐々小)		いじめ対策や不登校対策については、早期発見・早期対応を心掛け、一人一人を大切にされた対応、一つ一つの事案への迅速な対応を行っている。地域人材の活用については、各学年の教育課程に意図的に位置づけ、より一層充実した活動になるよう努めている。教職員の指導については、外部講師の招聘、3校研の充実、若手研の実施により、資質・能力の向上を図っている。学校運営協議会では、学校情報の公開に努め、委員の意見を取り入れながら学校経営を行っている。					
所見(口石小)		いじめにつながる問題行動を見逃さないようにするために、いじめの事案が疑われる場合は、学年主任、管理職に迅速に報告、相談できる体制を徹底した。不登校児童に対して、担任だけでなく、組織で対応するように努めるとともに、ステップルームやスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、特別支援コーディネーター、心の相談員など人的資源を活用し、登校している児童へも細やかな対応をできるような体制を整えて、組織的に指導を行い不登校も減少傾向が見られた。					
所見(佐々中)		信頼される学校づくりを推進するために、県教育委員会及び町教育委員会からの助言を受けながら教職員の資質・能力の向上をはじめ、問題行動の早期発見・即対応に努めてきた。併せて、綱紀保持に関する通知があった際は、管理職による職員指導を行い、啓発に努めている。また、情報発信の観点からは、学校評価の公表や学校だより、学年だより、学級だより、進路だより、保健だより等の計画的な発行を行った。佐々町3校合同研究を通して、小中の連携を深めながら児童生徒を9年間のスパンで見守ることができている。					
所見(委員会)		生徒指導については、全体的に良好であるが、個別的に課題を持つ児童生徒がおり、関係機関との連携をさらに進めていきたい。いじめの解消率は100%と良好であるが、「見落とし」または「見えない」いじめがないかを常に考えた指導を行っていく。不登校児童生徒の割合は増加しており、学校以外の家庭の問題もあるため家庭との連携を図るとともにQU検査を活用して予兆の段階での対応の強化や「ステップルーム」「サテライトあすなろ佐々教室」「なずな」の活用を行っていく必要がある。					

令和6年度 佐々町教育委員会自己点検・評価報告書

大項目	中項目	活動指標								成果指標							
		NO	教育委員会指標の内容	達成度	評価	学校等指標の内容	対象	達成度	評価	NO	指標の内容	現状値	目標値	該当年度値	達成度	評価	調査方法
5 学校・家庭・地域の連携の推進	① 「地域とともにある学校づくり」の推進	98	学校運営協議会への支援	4.0	A	学校運営協議会の開催	学校等	4.0	A	56	学校運営協議会の開催回数(年間)	各校3回	各校3回以上	3	100.0%	A	実態調査
		99	地域人材活用への支援	4.0	A	地域人材の活用	学校等	4.0	A	57	学校支援ボランティアの実人数(年間)(小中学校合計)	94人	100人	181	180.7%	A	実態調査
		100	大学生活用への支援	4.0	A	大学生の活用	学校等	4.0	A								
		101				地域を学習材とした活動の実施	学校等	4.0	A								
	② 読書活動の充実	102	読書活動推進のための支援	4.0	A	読書活動推進のための取組	学校等	4.0	A								
		103	図書ボランティア等の活動の支援	4.0	A	「読み聞かせ」の実施(小学校)	学校等	4.0	A	58	図書ボランティア等による「読み聞かせ」の実施回数(年間)(小学校)	データなし	30回(実施学級)	39.5	131.7%	A	実態調査
	③ 地域教育を担う人材の育成	104	地域人材活用への支援	4.0	A	地域人材の活用	学校等	4.0	A	59	土曜学習参加児童数(年間)	548人	550人	487	88.5%	A	実態調査
		105	土曜学習の開催	4.0	A					60	佐々っ子応援団見守り活動参加者数【総合戦略】	70人程度	現状維持	70.0	100.0%	A	実態調査
		106	佐々っ子応援団活性化への取組	4.0	A												
	④ 青少年健全育成活動の支援	107	青少年健全育成活動への支援	4.0	A	佐々っ子ゆめプランの啓発	学校等	4.0	A								
		108	地域子ども教室の開催	4.0	A					61	地域子ども教室参加児童数	674人	700人	531	75.9%	B	実態調査

評価	教育委員会項総合評価(活動指標)		学校等項総合評価(活動指標)		項総合評価(成果指標)	
	達成度平均: 4.0	総合評価: A	達成度平均: 4.0	総合評価: A	評価平均: 112.8%	総合評価: A
所見						
所見(幼稚園)						
所見(佐々小)	学習支援、安全指導、読み語りなど、地域人材との連携・活用を推進している。年度末には、見守りボランティア等お世話になった方々をお招きし、感謝の会を開催している。図書ボランティアの方及び、数年ぶりに清峰高校図書部の生徒に、毎週火曜日読み語りを実施していただいた。子どもたちは、毎週楽しみにしており、心温まる交流となっている。					
所見(口石小)	学校と家庭、地域と連携をしながら、児童の健やかな成長をみんなで支えようとする意識の高まりがとてありがたい。退職校長会や民生委員によるサポートティーチャー、婦人会や地域の方による学習支援、毎朝の立哨指導など、多岐に渡って連携を強化することができている。令和7年度に創立150周年を迎えるので、実行委員会を発足し、地域と共にある学校づくりをより一層推進している。					
所見(佐々中)	佐々っ子ゆめプランを各家庭に配付し、周知・徹底を図った。また、アンケートの実施を行いPTAの協力もいただきながら集計、分析を行っている。佐々っ子応援団の協力のもと、朝の立哨運動など子どもたちの見守り活動を熱心にしていただいた。また、PTAとも連携してあいさつ運動の実施等を行った。					
所見(委員会)	天候不良により中止となった活動(芋ほり体験)もあり、土曜学習プログラム等の地域子ども教室の参加児童数は目標値を達成できていない。前年度と比較しても参加児童数は減少しており、開催時期や開催時間帯などの課題点を整理し、参加児童の増加を図っていきたい。しかし、佐々っ子応援団の見守り活動や青少年健全育成会活動を中心に、学校・家庭・地域の連携の推進は図れているので、引き続き継続させていきたい。					

令和6年度 佐々町教育委員会自己点検・評価報告書

大項目	中項目	活動指標							成果指標						
		NO	教育委員会指標の内容	達成度	評価	学校等指標の内容	対象	達成度	評価	NO	指標の内容	現状値	目標値	該当年度値	達成度

大項目	中項目	活動指標							成果指標								
		NO	教育委員会指標の内容	達成度	評価	学校等指標の内容	対象	達成度	評価	NO	指標の内容	現状値	目標値	該当年度値	達成度	評価	調査方法
6 生涯学習機 会の内容の充 実と支援	② 各種講座を通 じた指導者・ティー チャーの養成	109	各種講座の充実への支援	4.0	A	各種講座の充実	公民館	4.0	A	62	各種講座参加者数(年間)【総合戦 略】	573人	600人	734	122.3%	A	実態調査
		110	公民館学習グループ等の自主学習グループの育成	3.0	B	公民館学習グループ等の自主学習グループの育成	公民館	3.0	B	63	公民館活動参加者数(登録者数)	521人	550人	434	78.9%	B	実態調査
		111	県立大学と連携した学習機会の充実	4.0	A	県立大学と連携した講座や活動の実施	公民館	4.0	A	64	講座参加者の満足度	98.0%	95%以上	97.622	102.8%	A	実態調査
										65	県立大学と連携した講座や活動の実 施数(年間)	4回	4回	1	25.0%	D	実態調査
	③ 読書機会の充 実	112	図書館機能充実のための支援・指導	4.0	A	書籍の整理と選書の充実	図書館	4.0	A	66	町立図書館の貸出冊数(年間)【総合 戦略】	144,387冊	現状以上	107,202	74.2%	B	実態調査
		113				「読み聞かせ」の実施	図書館	4.0	A	67	読み聞かせへの参加者数(年間)	1,929人	現状以上	1,096	56.8%	D	実態調査
	④ 人権教育の推 進	114	人権に関する講座の開催	4.0	A	人権に関する講座の開催	公民館	4.0	A	68	人権に関する講座の開催数(年間)	1回	現状以上	1	100.0%	A	実態調査
⑥ 地域交流セン ターの利用促進	115	ホームページ等による利用の広報	4.0	A					69	地域交流センターの利用者数(年間)	19,008人	20,000人	23,330	116.7%	A	実態調査	

所見	評価	教育委員会項総合評価(活動指標)		学校等項総合評価(活動指標)		項総合評価(成果指標)	
		達成度平均: 3.8	総合評価: A	達成度平均: 3.8	総合評価: A	評価平均: 80.0%	総合評価: A
所見(公民館)		各種講座の参加者数・参加者の講座満足度は目標値を達成している。 このことより生涯学習の内容は、満足いただけだと思う。					
所見(図書館)		書籍の整理については、定期的に蔵書整理を行い、選書については、分野別に計画どおり選書ができた。 貸出冊数については、館内照明のLED化工事で約1か月半休刊したため、減となった。 読み聞かせの実施についても工事期間中、9月～11月迄の間を中止としたため、減となった。参加者については、少なく目標値を下回った。					
所見(委員会)		町民のライフステージに応じた学習機会の提供に取り組むことができた。今後も生涯にわたって学ぶことができるよう引き続き実施していきたい。県立大学と連携した講座や活動については、目標値を下回っており今後の課題となっているため、 検討していきたい。 図書館については、貸出冊数や読み聞かせ参加者が減少しているが、原因はLED化工事に伴う休館したと考えられるため、今後の状況を注視していきたい。					

大項目	中項目	活動指標							成果指標								
		NO	教育委員会指標の内容	達成度	評価	学校等指標の内容	対象	達成度	評価	NO	指標の内容	現状値	目標値	該当年度値	達成度	評価	調査方法
7 生涯スポー ツの推進	① スポーツイベ ントの推進	116	スポーツイベントの開催	4.0	A	スポーツイベントの開催	関係団体	4.0	A	70	スポーツイベントの参加者数(年間) 【総合戦略】	908人	920人	1,327	144.2%	A	実態調査
		117				スポーツイベントの運営	関係団体	4.0	A	71	ジョギングフェスティバルの参加者数	1,809人	2,000人	1,236	61.8%	C	実態調査
	② スポーツ少年 団・体育協会活動 の育成・支援	118	社会体育団体の育成・支援	4.0	A	活動の活性化	関係団体	4.0	A	72	スポーツ少年団各部への登録者数及 びクラブ数	236人	現状以上	209	88.6%	A	実態調査
		119	登録者数及びクラブ数増加のための取組	4.0	A	登録者数増加のための取組	関係団体	4.0	A		13部	現状以上	12	92.3%	A	実態調査	
										73	体育協会各部への登録者数及びクラ ブ数	316人	現状以上	285	90.2%	A	実態調査
	③ 総合型地域ス ポーツクラブの育 成	120	総合型スポーツクラブへの支援	4.0	A	スポーツイベントやレクリエーションの開催	関係団体	4.0	A	74	総合型地域スポーツクラブ会員数【総 合戦略】	195人	200人	105	53.8%	D	実態調査
	④ スポーツ指導 者の育成	121	スポーツ指導者の育成	3.0	B	スポーツ指導者の育成	関係団体	3.0	B								
⑤ 体育施設の適 切な維持管理と有 効活用	122	体育施設の利用促進	4.0	A	体育施設の積極的な活用	関係団体	4.0	A	75	体育施設の利用者数(年間)	117,428人	119,000人	107,234	90.1%	A	実態調査	
	123	体育施設の適切な維持・管理	4.0	A													

所見	評価	教育委員会項総合評価(活動指標)		学校等項総合評価(活動指標)		項総合評価(成果指標)	
		達成度平均: 3.9	総合評価: A	達成度平均: 3.9	総合評価: A	評価平均: 90.1%	総合評価: A
所見(スポーツ関係団体)		ジョギングフェスティバルの参加者が減少傾向にある。参加者を増やすために、新しい企画を立案していく。 スポーツ人口の減少に伴い、部員数が減少している。スポーツ少年団の団員数は減少しているが、スポーツ協会は1部増え、会員も増加している。今後もスポーツ振興のために、活動を促進していく。					
所見(委員会)		ジョギングフェスティバルをはじめとする各種スポーツ大会を開催することができた。スポーツ人口を増加するための取り組みが必要である。					

令和6年度 佐々町教育委員会自己点検・評価報告書

大項目	中項目	活動指標						成果指標									
		NO	教育委員会指標の内容	達成度	評価	学校等指標の内容	対象	達成度	評価	NO	指標の内容	現状値	目標値	該当年度値	達成度	評価	調査方法
8 芸術・文化を守り、育てる活動の推進	① 郷土史学習講座の開催									76	社会教育講座における郷土史学習の受講者数(各回平均)	26人	30人	20	66.7%	C	実態調査
	② 学校教育における郷土教育の推進	124	「佐々町博士」の改訂・配布	4.0	A	「佐々町博士」の活用	小学校	4.0	A	77	「佐々町博士」の活用度	100%	100%を維持	100	100.0%	A	実態調査
	③ 文化財の保存と活用	125	文化財の適切な保存・保護	4.0	A												

大項目	中項目	評価	教育委員会項総合評価(活動指標)		学校等項総合評価(活動指標)		項総合評価(成果指標)				
			達成度平均: 4.0	総合評価: A	達成度平均: 4.0	総合評価: A	評価平均: 83.3%	総合評価: A			
8 芸術・文化を守り、育てる活動の推進	所見		【佐々小】「佐々町博士」を活用した学習が定着している。児童にとって、身近で分かりやすい内容で、効果的な学習が実施できている。特に、児童の興味関心を高める場面において有効である。「佐々町博士」を窓口にも、ふるさと教育をさらに広げ、郷土を愛する子ども、郷土に貢献しようとする子どもを育成していきたい。								
	所見(学校)		【口石小】社会科では、「佐々町博士」を頻りに活用し、佐々町の歴史・文化・産業をより身近に学ぶことができた。3年生の社会科で、三柱神社について取り上げ、動画を見せて児童の興味関心を高めた。4年生の社会科では、以前に起こった水害について深く探究するために佐々町役場よりゲストティーチャーを迎え話を聞き、地域の方々の思いや努力について学習を深めた。								
	所見(委員会)		芸術・文化を守り、育てる活動として、社会教育講座における郷土史学習を平成29年度よりほぼ毎年開催している。参加者は固定化、減少傾向にある。しかし、受講者の満足度は高い。郷土史学習は重要である。子どもから高齢者まで参加しやすい講座企画を考えなければならない。								

大項目	中項目	活動指標						成果指標									
		NO	教育委員会指標の内容	達成度	評価	学校等指標の内容	対象	達成度	評価	NO	指標の内容	現状値	目標値	該当年度値	達成度	評価	調査方法
9 地域文化の振興と創造	① 町民主体の文化芸術活動への支援	127	芸術・文化活動への支援	4.0	A					78	町民文化祭の参加者数	2,486人	2,500人	440	17.6%	D	実態調査
	② 子どもたちが芸術・文化にふれあう機会の提供	128	子どもたちが芸術・文化にふれあう機会の提供	4.0	A	子どもたちが芸術・文化にふれあう機会の設定	学校等	4.0	A	79	子どもたちが芸術・文化にふれあう機会の提供数(年間)	2回	現状以上	2	100.0%	A	実態調査
	③ 文化会館の利用促進	129	施設利用の促進	4.0	A					80	文化会館利用者数(年間)	32,807人	32,900人	14,241	43.3%	D	実態調査

大項目	中項目	評価	教育委員会項総合評価(活動指標)		学校等項総合評価(活動指標)		項総合評価(成果指標)				
			達成度平均: 4.0	総合評価: A	達成度平均: 4.0	総合評価: A	評価平均: 53.6%	総合評価: D			
9 地域文化の振興と創造	所見		【佐々小】 アルカスSASEBOの芸術鑑賞体験教室に参加し、プロの演奏を聴くことができた。また、アルカス佐世保のアウトリーチ事業など、体育館や音楽室で生の演奏を全校で聴くことができ、音楽に親しむ機会をたくさん設けることができた。								
	所見(学校)		【口石小】 佐世保地域文化事業財団による「子どものための芸術鑑賞体験教室」に5年生が参加した。また、11月の町民文化祭に各学年児童の作品を出品し、子どもたちが芸術・文化にかかわりながら生活する意識を高めることができた。								
	所見(委員会・公民館)		【佐々中】 学校での合唱コンクールや吹奏楽部の定期演奏会などを通して、音楽や美術など文化的な学習を計画的に実施することができた。コンクール等への参加状況は、広報さざに掲載し、町内に周知できている。また、町民文化祭の際には、本校からも複数の作品を出品し、地域と連携しながら文化の振興と創造に貢献できている。								
			11月2日(土)に開催を予定していた佐々青少年音楽祭は、大雨警報発令のため避難所開設に伴い、中止となった。町民文化祭の1日目は中止となったが、作品展示部門は高齢化、出展者減少に歯止めがかからない。出展者・来場者数増を図るためには、広報や他市町の情報収集をし、魅力ある町民文化祭について企画運営を再検討しなければならない時期にきている。								